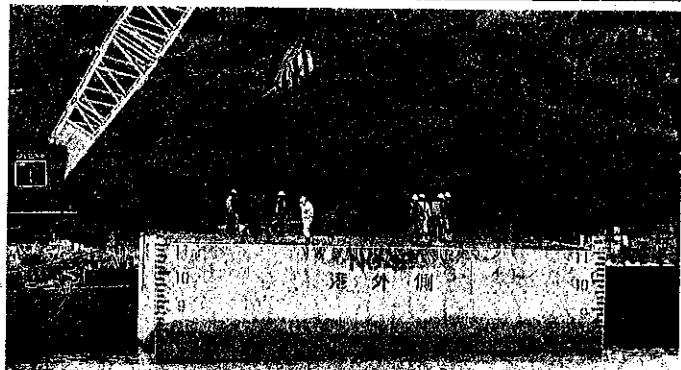


清水港 防波堤設置進む

津波対策や経済効果期待

来年度完成予定

清水港(静岡市清水区)沖合で防波堤の基礎ブロック「ケーソン」の設置作業が大詰めを迎えている。作業は2015年度中に終える予定。8年がかりの工事で防波堤は総延長が約2キロ、総到達するという。



ケーソンの設置作業を進める作業員ら(28日、静岡市清水区の清水港で)

防波堤が完成すれば、港内の波が穏やかになり、効率よい荷物の積み下ろしや、地震が発生した際の津波の衝撃を和らげる効果も期待できる。地元住民らは「防波堤で清水が活気づけば」と完成を心待ちにしている。

ケーソンとは、鉄筋コンクリートで造られた箱形のブロックのこと。1個の大きさは、長さ15・5メートル、幅14・5メートル、高さ11メートルで、3階建てのビルに相当する。

重さは約1600トン。海水や砂を中に詰めて海底に沈め、石を積み上げて作った土台に載せて固定する。コンクリートで上部を塞ぐと、海拔2メートルの防波堤ができる。さらに、波による影響を防ぐため、コンクリートを上に載せる。

事業は、08年から総額245億円をかけて実施している、国の直轄事業「新興津国際海上コンテナターミナル整備事業」の一環。

清水港は国が指定する全国18の「国際拠点港湾」の一つで、13年度のコンテナ貨物の取扱量は、東京、横浜などに次いで全国7位だ。防波堤などが整備されれば、将来的には貨物の年間取扱量が大幅に増える見込みで、地元にとって大きな経済効果が生まれるという。

28日は、ビルを建てるように鉄筋を組み上げ、陸で約3か月かけて造ったケーソンを海上輸送する作業を報道陣に公開した。ケーソンを海に浮かべて船で引っ張り、沖合400メートルまでえい航。設置には50人の作業員を投入しても8時間程かかるため、1日1個の設置が限界の難工事だ。

清水 J1 残留持ち越し

「最終戦に全てかける」

サッカーのJ1リーグ最終盤戦で、降格の瀬戸際に立つ清水エスパルスは29日、アウェイで柏レイソルに1-3(前半0-2)の完敗を喫した。勝てば残留決定の可能性もあった一戦を落とした清水は、勝ち点35で15位のまま。6日の最終節・ヴァンフォーレ甲府戦で勝つか引き分ければ、来季もJ1で戦える。甲府に負けても、16位の大宮アルディージャが引き分けか負けなら、J1残留となる。

清水は柏戦で、序盤から劣勢。10分、38分、62分、柏の外国人2トップにゴールを奪われた。途中出場の長沢駿が81分、混戦から押し込んで一矢を報いたが、反撃は1点にとどまった。

大槻克己監督は試合後、「サイド攻撃からの2失点が非常に残念。最悪でも引き分けで勝ち点1を取るゲームをしたかった」と顔をしかめ、「残り1試合に全てをかける」と、運命の